

〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

済生会鹿児島地域包括ケアセンター
済生会鹿児島病院・かごしま介護医療院
〒892-0831 鹿児島市南林寺町1-11
TEL 099-223-0101 FAX 099-227-4790

済生会鹿児島地域包括ケアセンター
済生会鹿児島地域福祉センター
〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-284-8250 FAX 099-284-8252

特別養護老人ホーム 高喜苑
〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕
〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-284-8253 FAX 099-284-8252

シルバーフラット武岡台
〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6870 FAX 099-283-6871

済生会なでしこの杜
〔サービス付き高齢者向け住宅〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-202-0710 FAX 099-283-6876

指定居宅介護支援センター高喜苑
〔指定居宅介護支援事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-4737 FAX 099-283-4733

グループホーム武岡ハイランド
〔認知症対応型共同生活介護事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-7231 FAX 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター
〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション
〔指定訪問看護事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-281-9292 FAX 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑
〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ
〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

編集 後記

今回、こもれびの編集に携わせて頂き、トピックスの心に残る特別な日は同法人に所属する事業所の取組みながら特に素晴らしいなと感じました。このような取り組みを多くの皆様にお伝えする事で「介護」に対してのイメージをより良いものにしていきたい、「介護」って人と人との繋がりを大事にする職業なんだって伝えたいって思った今回の編集でした。



こもれび

K O M O R E B I

特集

「おひとりさま終活支援ガイドブック」完成しました

— 頼れる身寄りがないことも当たり前の世の中になることに備えて —



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター
〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252
☐http://www.saiseikai-kg.jp

2026

vol.47

SUMMER

頼れる親族がない独居高齢者の急増に向けて

—おひとりさま終活支援ガイドブック完成—

済生会鹿児島地域福祉センター所長

吉田 紀子



梅雨の候、大雨が警戒される毎日ですが、皆様お変わりございませんか？

近年鹿児島市においても独居高齢者の孤独死増加の報道が認められます。

我が国においては超高齢社会の進行と相まって頼れる親族がない独居高齢者が急増しており、身寄りの無い高齢者はもはや少数の例外ではなく、あたりまえのことになってきました。

2024年4月の国立社会保障・人口問題研究所等によると、超高齢社会進行中のわが国では、下記が見込まれています。

- ①単独世帯の高齢者が2020年の738万人から2050年には1084万人まで増加見込み。
- ② 65歳以上の未婚者数は2020年の223万人から2050年には現在の3倍以上にあたる約700万人まで増加見込み。
- ③未婚者・離別者は子がない割合が高く、子を持たない夫婦も増加傾向にあることから、2050年には子のいない高齢者は現在の1.9倍にあたる1,049万人へと増加する見込み。
- ④日本総合研究所の分析によれば、死亡者数全体の半分超を占める85歳以上に着目すると、子がない人の割合は2020年には1.4%であったのに対し、2050年には19.5%に上る見込みであり、もはや少数の例外ではなくなる。
- ⑤高齢化、未婚化、単身化、地域との繋がりや脆弱化などから孤独死リスクは確実に上昇していると推測される。

以上より、介護サービスの利用手続きや終末期医療の意思決定支援、死後対応などにおいて、現在のように子に代表される親族支援者がいることを前提とした支援の仕組みの見直しが急務と考えられます。

介護や終末期医療需要増に備え、国も地方自治体も、受け皿の計画的整備に努めてはいるが、例えば、国内で鹿児島県はじめ人口10万当たりの介護福祉施設数が多

い県においても孤独死は増えており、施設整備だけでは高齢者の孤立・孤独死を防げないことが示唆されており、独居高齢者の尊厳を踏まえた手段的・精神的・地域社会的複合ニーズをきちんと把握しその包括的充足対策を講じることの必要性が考察されます。

これらの問題意識のもとに、社会的困窮者を含むすべての人々が共生・協働できるソーシャルインクルージョンの地域づくりに貢献することを使命の一つにしている済生会鹿児島地域包括ケアセンターでは、身寄りがなくても住み慣れた地域で人生最後まで尊厳を保ち生き抜けるための仕組みづくりに資するため、2021年度から鹿児島市の協力のもとに当事者・関係機関団体の代表者からなる「身寄りのないおひとりさま終活支援プロジェクト」を推進してきました。

2021～2022年度はニーズ・シーズ調査を、2023年度はシンポジウム開催等を重ねて、それらの結果を踏まえて、2024年度2025年度にかけて「身寄りのないおひとりさま終活支援ガイドブック」を作成しました。

ガイドブックの特徴は、当事者の尊厳ある人生完結のための終活、それを支援する支援者の終活支援、当事者と支援者のニーズの充足、当時者の互助促進、それらを可能にする共生・協働の地域づくりに重きを置いていることです。

身寄りがなくても安心して人生を完結できるには、自助・互助・共助・公助と地域づくりが必要です。

公助については今国会で、身寄りのない高齢者支援強化等を目的とし、社会福祉法改正法が成立し、今後自治体ごとの早い具現化が期待されるところです。

しかしながら身寄りのない独居高齢者の支援ニーズ調査の結果を見ると、これらの公的制度で手段的支援の仕組みはできても、不安や寂しさ等の精神的・情緒的支援ニーズは必ずしも充足できないことが推測されます。

当事者の互助会の事例から、精神的・情緒的ニーズのかなりの部分を充足できるのは同様の不安や寂しさや実存的悩みを共感・共有できる同じ境遇の方々であることが示されています。これらのことから今後は頼れる親族のいない高齢者も元気なころからの終活の一環として仲間づくりと互助活動や互助体づくりが重要になってくると考えられます。

心理学者マズローは人間はひとりで自由きままにしたいという心理的欲求と安心できる組織(家族)に所属したいという心理的欲求が併存すると指摘しています。

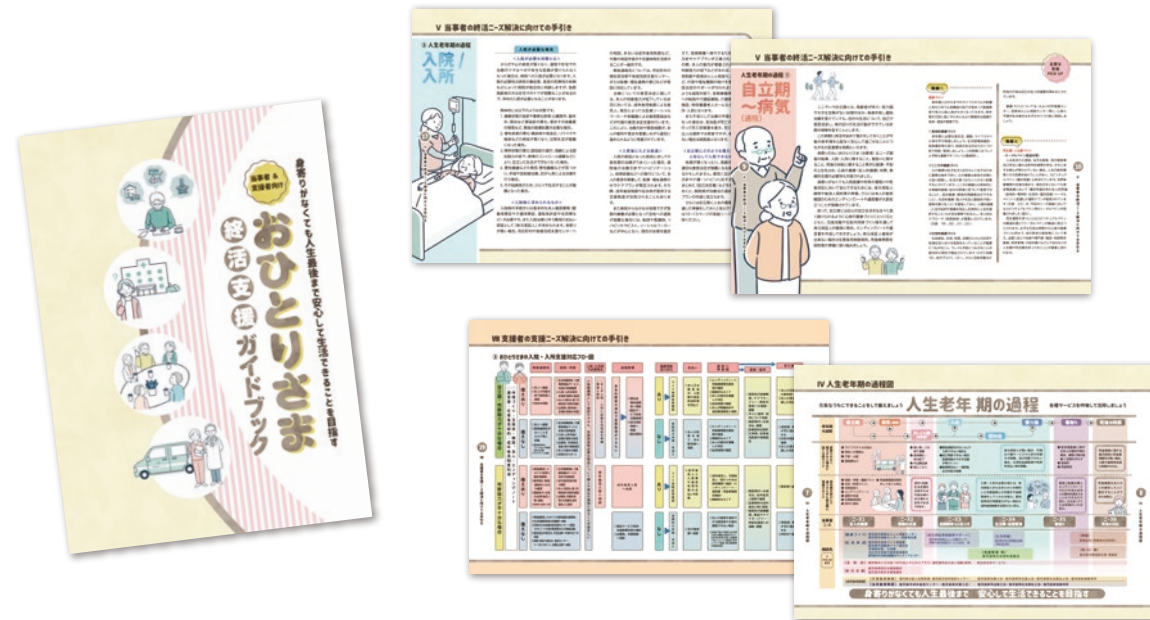
互助体は疑似家族的にこころの拠りどころとなるものと思われます。

互助の促進には支援機関・団体や地域住民や行政の地域づくり支援が必要です。今後、それぞれの立場で、自助、互助、共助、公助として、頼れる親族の有無にかかわらず、すべての人々が住み慣れた地域で自分らしく人生を完結できる地域社会づくりに協働してまいりましょう。

おひとりさま終活支援ガイドブックがお役にたてることを願っております。

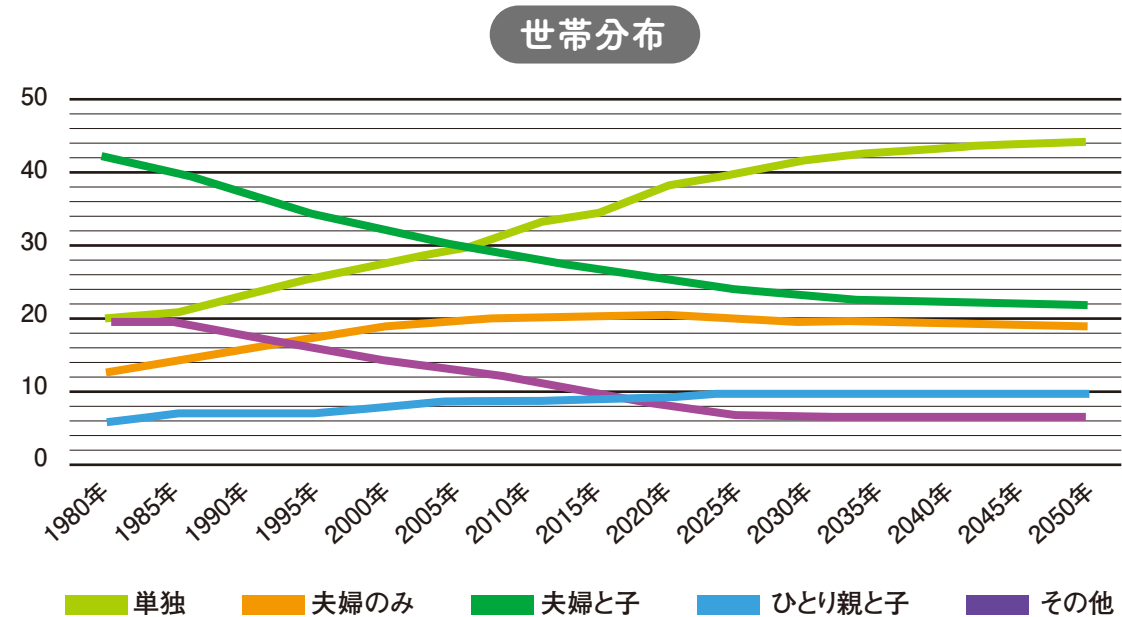
「おひとりさま終活支援ガイドブック」完成しました

— 頼れる身寄りがないことも当たり前の世の中になることに備えて —

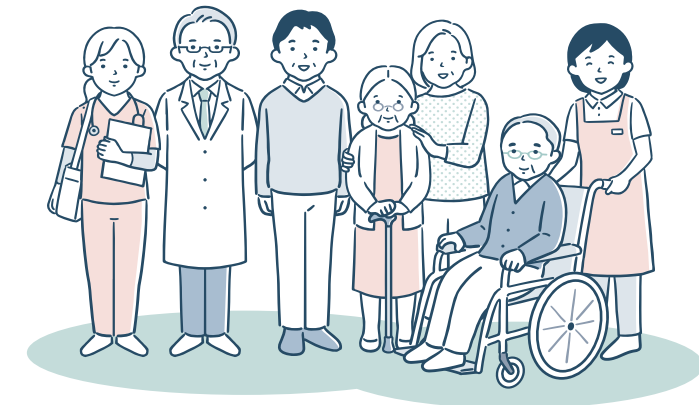


2026年4月3日「社会福祉法等の一部を改正する法律案」が閣議決定され、「頼れる身寄りのない高齢者」への公的な支援の制度化が図られる事となり、その早い具体化が期待されるようです。

この法改正の背景には65歳以上の単身世帯の急増があります。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば2000年に27.6%だった単身世帯が2025年には40.1%、2050年には44.3%まで増えるの見込まれています。



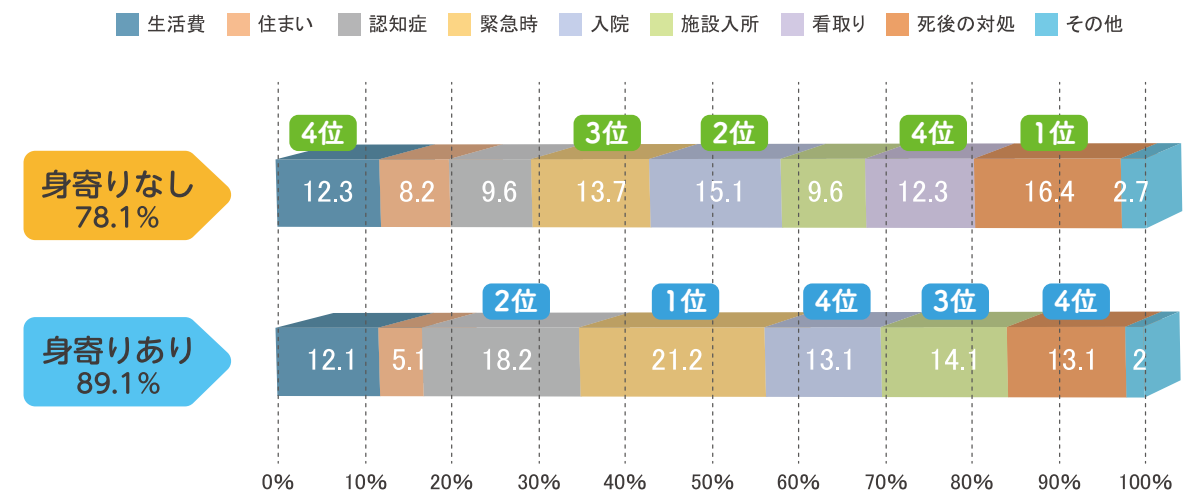
※国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口参考



単身世帯が年々増加していくなかで近年、鹿児島市においても独居高齢者の孤独死等の激増が報道されています。そのような中、済生会鹿児島地域包括ケアセンターでは令和3年度より、地域の身寄りの無い独居高齢者等の孤立死・孤独死をなくし幸せな老後をおくれる終活支援の仕組みづくりを目的とした「身寄りのないおひとりさま終活支援プロジェクト」を立ち上げ、ニーズ調査を実施しました。

以下、プロジェクトで実施した調査の一部をご紹介します。

図1 独居高齢者の心配事の内容（二次調査）



身寄りの無い独居高齢者の心配事

- 1位 死後の対処
- 2位 入院
- 3位 緊急時
- 4位 看取り・生活費

身寄りのある独居高齢者の心配事

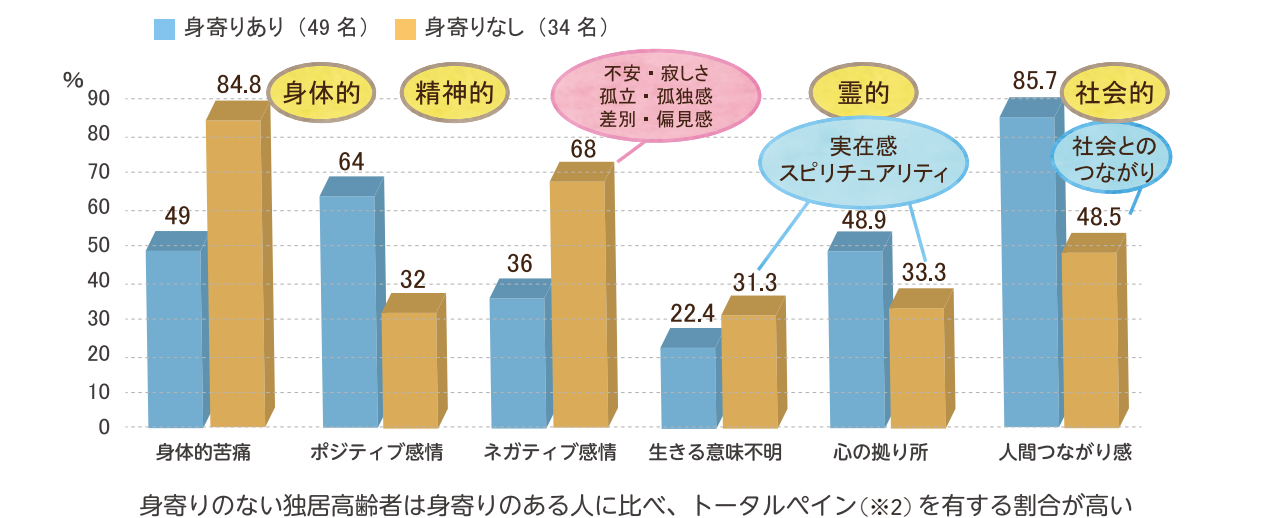
- 1位 緊急時
- 2位 認知症
- 3位 施設入所
- 4位 死後の対処・入院

※調査の結果、身寄りの有無で心配事の順位が異なります。

独居高齢者の健康

図2 独居高齢者等の全人的健康（※1）
（済生会鹿児島地域包括ケアセンター身寄りのないおひとりさま終活支援
プロジェクト調査2022より 性・年齢は両群有意差なし）

※1 全人的健康とは
全人的とは患者さんや対象者を身体面だけでなく心理的・社会的等の側面も含めた「人間としての全体像」として捉えることを意味します。特に医療、看護・ケア等の分野で用いられており、心と身体を切り離さず、相互に作用しあうものとして理解し、より深いレベルで対象者を理解し介入することを目指すために役立ちます。



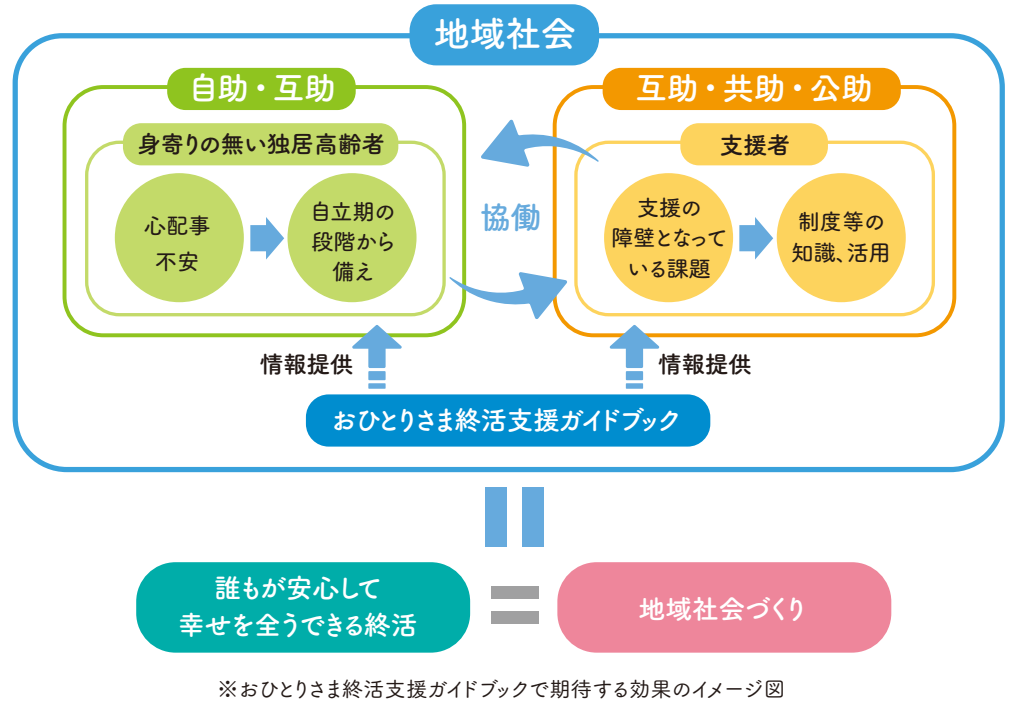
※2 トータルペインとは
近代ホスピスの創始者シシリーソンドースにより提唱された言葉で、患者さんは身体的・精神的・社会的・霊的な4つの苦痛を受け、4つの痛みは互いに関連し合っているとし、4つの痛みの総称をトータルペイン(全人的苦痛)と称しています。Quality of Death(QOD 死の質)に密接に関連し、終末期などのケアの際に支援者はトータルペインを良く理解して支援することが大切とされています。

様々な調査結果を踏まえて

調査の結果から身寄りのない独居高齢者については死後の対処、入院、看取り等の心配事があり、客観的に見た場合身体的のみならず、精神的・社会的な支援が必要である事が分かりました。
また、他の調査では支援者サイドの視点からは身元保証人確保が最重要であることや相談窓口の明確化が課題であるとの結果でした。

様々な調査結果を踏まえて、私たち済生会鹿児島地域包括ケアセンターでは身寄りがないでも安心して老年期を完結できるための手引書として、鹿児島市のご協力のもと、当事者・支援者関係機関団体の方々の協働作業により「おひとりさま終活支援ガイドブック」を作成しました。

おひとりさま終活支援ガイドブックを通じて身寄りの無い独居高齢者が自助に取り組み、互助に参画する。支援者は障壁となっている課題に対してアプローチ出来るようになる。その結果、誰もが安心して幸せを全うできる終活を行う事が出来るようになり、それが地域社会づくりの一助になればと考えています。



“頼れる身寄りがないことはもはやスタンダードである”といった事を共通認識として、身寄りがない方といった当事者のみならず、その支援者やその当事者の近しい人にまで普及すればといった想いです。

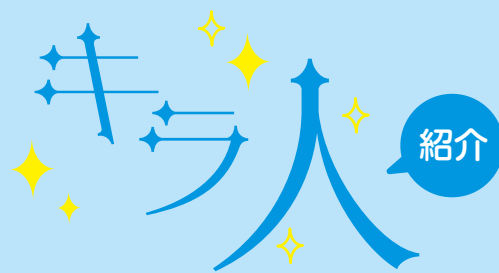
人は誰しも老年期には自立期(体力・気力面で大きな支障がない状態、自分の生活について意思決定し、身の回りの生活行動が出来ている時期)から次第に虚弱になり、病気で入院等を経て要介護状態になり終末期を迎えます。終活は自立期に始めて、備えをしておくことが非常に重要です。今回はソーシャルインクルージョン(※3)推進の一端として、「おひとりさま終活支援ガイドブック」についてご紹介させて頂きました。「おひとりさま終活支援ガイドブック」では身寄りがないでも安心して老年期を過ごせるための終活に必要な知識、自助努力や備えに役立つ情報をご案内し、支援者の方々には支援の障壁になっている課題の対応策等をご紹介しています。

「おひとり様終活支援ガイドブック」はホームページにて無料でどなたでもご確認して頂けるよう準備してございます。本ガイドブックが多くの方々に活用され、身寄りのないおひとりさまのための終活(支援)に役立つとともに、身寄りがないでも安心して老年期を過ごせる互助共生社会の実現に発展していくことを期待しています。

※3 ソーシャルインクルージョンとは
社会的に弱い立場にある人々を含むすべての人を地域社会で受入、ともに生きていくという理念のことです。済生会での無料低額診療事業やなでしこプランは、まさに「社会から誰一人取り残さない」ための活動でソーシャルインクルージョンやSDGsと理念を共にしています。

電子版：おひとり様終活支援ガイドブックはこちら





新たな仲間をご紹介します！

このたび、済生会鹿児島地域福祉センター副所長兼特別養護老人ホーム高喜苑施設長に鶴田美佐子さんを迎え入れました。

利用者様やご家族の皆様、そして職員との繋がりを大切にしながら、より良い施設づくりに取り組んでくださっています。長年にわたり医療・介護の現場に携わっており、その豊富な経験を活かしながら、利用者様お一人おひとりが安心して、笑顔で過ごせる環境づくりに尽力されています。

Q 出身地は？

A 鹿児島市、平川動物園の近くです。小さい頃は猿やライオンの鳴き声が聞こえて「逃げ出したら・・・」と思うと怖くて眠れない夜を過ごしたことがあります。

Q 趣味は？

A スキー 銀世界に包まれると心が洗われるような気持ちになります。

Q 好きな食べ物は？

A 特定できません。食に食欲です（笑）

Q 最近ハマっていることは？

A 断捨離ですね。

Q 子供のころの夢は？

A 幼稚園の先生 中学生の時の担任が看護師に向いていると、事あるごとに言われ、マインドコントロールされ（笑）、いつの間にか看護師になりたいと強く思うようになりました。

Q 休日の過ごし方は？

A 月に1回程度は、1泊2日で旅行に行きます。

Q 医療福祉の仕事で大切にしていることは？

A 1番は患者さん・利用者さんに寄り添い、安心安全なケアを提供していくことです。常に「感謝」という気持ちを持つことを大切にしています。悩んだり落ち込んだ時も何事にも感謝することで前向きになれます。ケアさせていただいていることも、患者さん・利用者さんに感謝です。

Q 最後にひとことお願いします。

A 楽しく仕事することが私のモットーです。一緒に働く職員が笑顔で働いている姿を見ると、幸せな気分になります。

特別養護老人ホーム高喜苑
施設長

鶴田 美佐子

プロフィール

出身：鹿児島市

干支：猪年

血液型：O型

座右の銘：為せば成る 為さねば成らぬ何事も



おまけ
質問

Q

私、実はこう見えて、
〇〇なんです
〇〇を言葉で埋めてください。

A

天然

KOMOREBI TOPICS

こもれびトピックス

プランターで作物づくり

グループホーム武岡ハイランド

新緑の緑も深みを増し暑さを感じる季節になってまいりました。

グループホーム武岡ハイランドでは、入居者の皆様に季節感を感じ、自然と触れ合っていただく機会として、プランターではありますが、ピーマン・ミニトマト・オクラの苗を一株ずつ植えていただきました。今後は成長を楽しみにしながら、時には水やりや、草取りをしていただこうと考えております。

苗を購入し、植えていただいた際に「まあ、なんの苗ね?」「穴を掘って植えるのね」「楽しみね」など笑顔で話され、入居者同士、話が盛り上がる様子がみられました。

作物づくりをしているのは3階のベランダです。ホールから見える位置にベランダがある事から、入居者の皆さんが見えるようにプランターをベランダに置かせて頂きました。お野菜が出来るのも楽しみですが、大きく育つその経過を見ることが楽しみです。

ベランダは災害時などの避難経路にもなっているので、たくさん植えることは難しいですが、少しでも入居者皆様の生活の彩になればと思います。



済生会鹿児島地域福祉センターと一緒に働きましょう！（職員募集）

済生会鹿児島地域福祉センターには、高齢者の入所施設や住まい、介護保険の通所事業所や訪問事業所があります。

鹿児島市内、地域の高齢者の皆様やそのご家族が安心して生活できるよう、地域包括ケアシステムの礎となるべく、多職種の職員が業務にあたっています。

介護職員はもとより、看護職員・生活相談員・ケアマネージャーの職員や資格がなくても働ける介助員さんなど、多くの事業所で職員を募集しています。ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

「問い合わせ先：済生会鹿児島地域福祉センター TEL 099-284-8250 担当：森」



心に残る特別な日



特別養護老人ホーム高喜苑

去る5月、施設入所されているA様は、心に残る特別な一日を過ごしました。なぜなら、愛する娘の花嫁姿をみることができたからです。普段は施設内で静かに過ごす日々ですが、この日は家族全員が一堂に会し、祝福の声が飛び交う中、A様にとって忘れられないひと時となりました。

当日、会場に到着し、しばらくすると、花嫁が登場する瞬間がやってきました。白いドレスをまとった娘様が、美しく微笑んでいました。会場にて立ち会われた奥様をはじめ、会場スタッフ、私ども職員も感動の涙でした。親の愛と娘の幸せの瞬間が交錯するこの一日、A様の奥様からは、「主人が病気になったときは、このように立ち会うことは難しいと思っていました。助けをいただき、感謝でいっぱいです。」と話してくださいました。

施設での生活は、年齢が進むにつれて制約が増えることもありますが、そんな中でこのような特別な瞬間があることは、本当に貴重です。人生の最終ステージで、悔いのない日々を送っていただけるように、これからもお手伝いをさせていただけたら幸せなことだと思わせる一日となりました。



高喜苑の皆様へ。

いつもお世話になっております。
この度の娘の結婚式に際しましては、
塩田様をはじめ、スタッフの皆様のご
ご支援とご配慮をいただき心よりお礼
申し上げます。
お陰様で家族みんなで幸せな時間を過
こすことが出来ました。

娘の人生の大切な時、世のお父さんが
そばにいて、気の早い主人は、嫁に
やらせろと言っていました。

病に倒れた後、日記を書き残して主人が
娘の誕生日に読んでいたのが、
花嫁姿が見てとてもうれしかったです。

この想いが叶う日まで待つことは、諦めていたの
ではありません。

けれど、その主人の夢を叶えて下さり、私達の
望みを叶えて下さり、感謝の想いでいっぱいです。

あの時のお父さんの表情、私達の記憶に
残るかけがえのないひとときになりました。

携わって下さる皆様へ、通常の業務が
あらかゆるゆる、主人の体調のことや、身仕度
送迎の準備、スタッフの皆様の手配、
主人の想いに寄り添って下さるお声かけや、娘への
花束も、皆様のご好意のおかげで有難く、
感謝申し上げます。これからも、
よろしくお願いいたします。

いつの日か、お手を振る日も、健康に
穏やかに日常を送って下さることを願っています。
ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、
引き続き今後ともどうぞ、よろしくお願いいたします。

お礼を申し上げます。ペンとらせてい
ました。
李節福、どうぞご自愛のほどお祈り申し上げます。

高喜苑の皆様

いつも大変お世話になっております。

先日、私の結婚式におきまして、次山のご協力を
いただきまして、誠にありがとうございました。

塩田様をはじめ、スタッフの皆様のご協力ののおかげで
無事、父に花嫁姿を見せることができました。

あの日、父と過ごせる時間は短かかったですが、
父、私も、家族として一生を共に歩きた特別の時間
になりました。当日を迎えるまで体調面や衣装、
スタッフの皆様の手配や送迎等、お忙しい中、

サポートやご準備等、ありがとうございました。

高喜苑様のいつも温かい雰囲気や、家族の想いと大切に
して下さる姿勢を改めて感じる機会になり、ご縁が
良くなりました。父の入所場所を
決める時、高喜苑様と出会い本当に良かったです。
今後ともご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、
何卒、よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、まずはお礼を申し上げたく
お礼を言わせていただきたいと思います。

暑い日も続くようです。皆様どうぞご自愛ください。

今後ともよろしくお願いいたします。